

| 題名 | 執筆者所属名1 | 執筆者 役職名1 | 執筆者名1 | 執筆者所属名2 | 執筆者 役職名2 | 執筆者名2 | 執筆者所属名3 | 執筆者 役職名3 | 執筆者名3 | 執筆者所属名4 | 執筆者 役職名4 | 執筆者名4 | 執筆者所属名5 | 執筆者 役職名5 | 執筆者名5 | 書籍名 | 発行者 | 巻号 |
|---|-----------------|-------------|--------|-----------------|-------------|--------|-----------------|-------------|--------|-----------------|-------------|-------|-----------------|-------------|-------|------------------------------|-------------------------|----------------|
| 特集／コンクリート構造物の診断と補修・補強 3. コンクリート構造物の検査 土木構造物の検査 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | | | | | | | コンクリート工学 | (社)日本 コンクリート 工学協会 | Vol.48 No.5 |
| 再生骨材から溶出する6価クロムの溶出試験方法の 検討 その1 不溶残分と6価クロムの溶出 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 基礎材料チーム | 上席研究 員 | 渡辺 博志 | 基礎材料チーム | 主任研究 員 | 片平 博 | | | | | | | セメント技術大会講演 要旨 | (社)セメン ト協会 | 第64回 |
| 電磁波レーダ(ツインパス方式)によるかぶり厚さ測定 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 三井造船(株) | | 岡 富士男 | | | | | | | | | | 平成22年度春季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| 電磁波レーダ(パルス方式)によるかぶり厚さ測定 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 日本無線(株) | | 中 民矢 | 日本無線(株) | | 飯田 洋志 | (株)計測技術サー ビス | | 松田 吉人 | (株)計測技術サー ビス | 小山 征一郎 | | 平成22年度春季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| 鉄筋溶接継手の超音波探傷方法に関する研究 その1 基準レベルの取り方等に関する検討 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 基礎材料チーム | 上席研究 員 | 渡辺 博志 | | | | | | | 平成22年度春季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| コンクリート解体材からの6価クロム溶出の特性、簡易 試験方法および抑制対策に関する検討 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 基礎材料チーム | 上席研究 員 | 渡辺 博志 | 基礎材料チーム | 主任研究 員 | 片平 博 | 新材料チーム | 主任研究 員 | 新田 弘之 | | | | コンクリート工学年次 論文集 | (社)日本 コンクリート 工学協会 | Vol.32 No.1 |
| 粒度の異なる再生骨材の6価クロム溶出試験に関する 検討 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 基礎材料チーム | 上席研究 員 | 渡辺 博志 | 基礎材料チーム | 主任研究 員 | 片平 博 | 宮城大学 | | 北辻 正文 | ほか3名 | | | 土木学会第65回年次 学術講演会講演概要 集 | (社)土木 学会 | 第V部 |
| 衝撃弾性波による新設構造物の圧縮強度測定におけ る材齢補正方法の検討 | リック(株) | | 岩野 聡史 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | | | | 土木学会第65回年次 学術講演会講演概要 集 | (社)土木 学会 | 第V部 |
| 鉄筋溶接継手を対象とした超音波探傷試験における 欠陥の位置の影響に関する検討 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 基礎材料チーム | 上席研究 員 | 渡辺 博志 | | | | | | | 土木学会第65回年次 学術講演会講演概要 集 | (社)土木 学会 | 第V部 |
| コンクリート構造物における非破壊試験(物理探査)の 適用性について | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | | | | | | | 地質と調査 | (社)土木 春秋社 | 125号 |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破 壊・微破壊試験に関する検討 その1 実験概要 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | | | | | | | 平成22年度秋季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破 壊・微破壊試験に関する検討 その2 PP短繊維を混入したコンクリートの基礎性状 | 基礎材料チーム | 交流研究 員 | 山田 宏 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | 平成22年度秋季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破 壊・微破壊試験に関する検討 その3 パルス方式電磁波レーダによる鉄筋探査に及 ぼすPP短繊維の影響 | 日本無線(株) | | 飯田 洋志 | 日本無線(株) | | 中 民矢 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | (株)計測技術サー ビス | | 松田 吉人 | (株)計測技術サー ビス | 小山 征一郎 | | 平成22年度秋季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破 壊・微破壊試験に関する検討 その4 ツインパス方式電磁波レーダによる鉄筋探査 に及ぼすPP短繊維の影響 | 三井造船(株) | | 岡 富士男 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | | | | 平成22年度秋季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破 壊・微破壊試験に関する検討 その6 電磁誘導法による鉄筋探査に及ぼすポリプロ ピレン短繊維の影響 | 計測技術サービス (株) | | 清 良平 | 計測技術サービス (株) | | 松田 吉人 | 計測技術サービス (株) | | 小山 征一郎 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | | | | 平成22年度秋季講演 会講演概要集 | (社)日本 非破壊検 査協会 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|-----------------|-------|-------------|--------------|---------|-------|------------|---------|-------|----------------------------------|------------------------|--------------|
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その8 電磁誘導法による鉄筋探査に及ぼすPP短繊維の影響 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 日本ヒルティ(株) | | 久富 真悟 | (株)サンコウ電子研究所 | | 小熊 孝昌 | 富士物産(株) | | 峰村 富夫 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その9 超音波法(土研法)による強度推定に及ぼすPP短繊維の影響 | (株)東横エルメス | | 山口 達夫 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | (株)八洋コンサルタント | | 奥 紀仁 | (株)八洋コンサルタント | | 横山 博 | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その10 超音波法(土研法)によるコンクリートの圧縮強度の推定 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 富士物産(株) | | 峰村 富夫 | 富士物産(株) | | 竹田 文夫 | エフティーエス(株) | | 藤原 貴央 | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その11 衝撃弾性波法によるPP短繊維の影響の確認 | リック(株) | | 岩野 聡史 | リック(株) | | 坂本 良憲 | リック(株) | | 伊藤 順紀 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その12 衝撃弾性波の表面2点法による強度推定に及ぼすPP短繊維の影響 | (株)コスモプランニング | | 立見 栄司 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | | | | | | | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その13 反発度法による鉄筋コンクリートの圧縮強度の推定 | 富士物産(株) | | 竹田 文夫 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 富士物産(株) | | 峰村 富夫 | | | | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その14 ポス供試体のPP短繊維混入コンクリートへの適用に関する検討 | 千代田建工(株) | | 篠崎 徹 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 戸田建設(株) | | 袴谷 秀幸 | | | | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの非破壊・微破壊試験に関する検討 その15 小径コア法による微破壊試験に及ぼすPP短繊維の影響 | 佐原 晴也 吉川 悟史 | | 日本国土開発(株) | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 野永 健二 若林 信太郎 | | (株)銭高組 | 前田建設工業(株) | | 佐藤 文則 | ソフトコアリング協会 | | 岡田 茂 | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| 衝撃弾性波による弾性波速度の測定に及ぼす含水量の影響 | リック(株) | | 伊藤 順紀 | リック(株) | | 岩野 聡史 | リック(株) | | 坂本 良憲 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | | | | 平成22年度秋季講演会講演概要集 | (社)日本非破壊検査協会 | |
| Experimental Study on the Long-term Durability after Repairing by Desalination | 基礎材料チーム | 主任研究員 | H. Koga | 基礎材料チーム | 上席研究員 | H. Watanabe | (株)阿部日鋼工業 | | Y. Takeuchi | | | | | | | Concrete under Severe Conditions | Taylor & Francis Group | |
| 含水率が現場透気試験結果に与える影響に関する検討 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | 橋梁構造研究グループ | 上席研究員 | 木村 嘉富 | | | | | | | 第65回年次学術講演会講演概要集 | 土木学会 | Vol.65, No.5 |
| 塩水に浸せきしたセメントペースト硬化体中のナトリウムイオン挙動 | 基礎材料チーム | 交流研究員 | 松本 健一 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | 第65回年次学術講演会講演概要集 | 土木学会 | Vol.65, No.5 |
| アルカリシリカ反応により劣化したコンクリート構造物の膨張拘束に関する基礎的研究 | 橋梁構造研究グループ | 交流研究員 | 塚田 高則 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | 橋梁構造研究グループ | 交流研究員 | 早川 智浩 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | 橋梁構造研究グループ | 上席研究員 | 木村 嘉富 | 第65回年次学術講演会講演概要集 | 土木学会 | Vol.65, No.5 |
| ASRIにより膨張したコンクリートにおけるあと施工アンカーの耐力に関する検討 | 橋梁構造研究グループ | 交流研究員 | 早川 智浩 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | 橋梁構造研究グループ | 交流研究員 | 塚田 高則 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | 橋梁構造研究グループ | 上席研究員 | 木村 嘉富 | コンクリート構造物の補修、補強、アップグレード論文報告集 | 材料学会 | Vol.10 |
| ASRIにより膨張したコンクリートにおける表面含浸材の補修効果の検討 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | 橋梁構造研究グループ | 上席研究員 | 木村 嘉富 | | | | | | | コンクリート構造物の補修、補強、アップグレード論文報告集 | 材料学会 | Vol.10 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---------|-------|-------|---------|-------|--------|---------|-------|-------|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|--------------|
| コンクリートの単位水量測定 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | | | | | | | | | | | | | セメント・コンクリート | (社)セメント協会 | No.758 |
| コンクリート解体材の屋外暴露における微量成分の溶出特性 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | | | | セメント技術大会講演要旨 | (社)セメント協会 | Vol.64 |
| 簡易な評価指標によるコンクリートの乾燥収縮率推定法に関する実験的検討 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | | | | コンクリート工学年次論文集 | (社)日本コンクリート工学協会 | Vol.32 |
| 砂利粗骨材の耐凍害性評価法に関する研究 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和大 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | 土木学会年次学術講演会講演概要集 | (社)土木学会 | Vol.65, No.5 |
| 膨張材を使用したコンクリートの拘束度と凍結融解抵抗性に関する実験的研究 | 基礎材料チーム | 交流研究員 | 天谷 公彦 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | 土木学会年次学術講演会講演概要集 | (社)土木学会 | Vol.65, No.5 |
| コンクリートの乾燥収縮率と骨材の乾燥収縮率の関係 | 基礎材料チーム | 交流研究員 | 山田 宏 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | 「コンクリートの収縮特性評価およびひび割れへの影響」に関するシンポジウム」論文集 | | |
| プレストレストコンクリート部材の断面修復技術 | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | | | | | | | 橋梁と基礎 | | Vol.44, No.8 |
| コンクリート分野における近年の技術動向(乾燥収縮ひび割れについて) | 基礎材料チーム | 上席研究員 | 渡辺 博志 | | | | | | | | | | | | | 九州技報 | | No.48 |

| 頁始め | 頁終り | 発行年 (YYYY) | 発行月 (MM) | 発行年度 (YY、西暦 下2桁) | 承認ステ ータス(1=未 承認,2= 承認) | 和英文 (1=日本 語,2=英 語,3=英 語SCI) | 査読(0=査読な し,1=全文査 読,2=アブス ト査読,3=ホス タセッション,4=その 他記事等) | 要旨 | 発表者所属 | 発表者 役職 | 発表者 | 会議名 | 会議主催者 | 会議開催 場所 |
|------|------|---------------|-------------|------------------------|---------------------------------|---|--|---|-------------|-------------|--------|-----------------|-----------------|------------|
| 43 | 47 | 2010 | 5 | 2010 | | 1 | 4 | 土木のコンクリート構造物の維持管理のベースとなる、新設構造物の検査のための基準や手法について取りまとめた。 | | | | | | |
| 178 | 179 | 2010 | 5 | 2010 | | 1 | 0 | 再生骨材の粒度が6価クロムの溶出に及ぼす影響を確認するため、不溶残分を測定した結果を報告した。 | | | | | (社)セメント協会 | 東京 |
| 137 | 140 | 2010 | 5 | 2010 | | 1 | 0 | ツインバス方式のレーダ装置は、比誘電率を設定することなくかぶり厚さを推定することができる。この装置のかぶり厚さ測定精度について報告した。 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 平成22年度春季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 東京 |
| 141 | 144 | 2010 | 5 | 2010 | | 1 | 0 | 以前まで用いていたレーダ装置の後継機で、性能を向上させた装置によるかぶり厚さ、鉄筋間隔識別能力の測定結果について報告した。 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 平成22年度春季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 東京 |
| 145 | 148 | 2010 | 5 | 2010 | | 1 | 0 | 溶接継手の新しい超音波探傷法による斜めK走査法、斜めタンデム走査法により、外周面を反射させながら探傷する方法の、首圧の変化測定結果を報告した。 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 平成22年度春季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 東京 |
| 1505 | 1510 | 2010 | 7 | 2010 | | 1 | 1 | コンクリート解体材からの6価クロムの溶出試験方法および溶出抑制対策を確立するために、6価クロムの溶出に関する各種要因、コンクリート解体材に適した溶出試験方法の検討、現場での品質管理を考慮した簡易な溶出試験方法の検討、および6価クロムの溶出を抑制するための対策に関する検討状況を報告した。 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | コンクリート工学年次大会 | (社)日本コンクリート工学協会 | 大宮 |
| 281 | 282 | 2010 | 9 | 2010 | | 1 | 0 | 再生骨材からの6価クロムの溶出は、試料の粒度の影響が大きいといわれていることから、粒度が溶出に及ぼす影響について検討した。 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 土木学会第65回年次学術講演会 | (社)土木学会 | 札幌 |
| 453 | 454 | 2010 | 9 | 2010 | | 1 | 0 | 非破壊試験によってコンクリート強度の検査を行うに当たって、設計基準強度を設定した材齢(基準材齢)時の強度を推定する必要があるが、必ずしもその材齢で試験できるとは限らない。そのため、試験した材齢から、基準材齢時の強度を推定するための補正方法について検討した。 | リック(株) | | 岩野 聡史 | 土木学会第65回年次学術講演会 | (社)土木学会 | 札幌 |
| 477 | 478 | 2010 | 9 | 2010 | | 1 | 0 | これまで鉄筋の溶接継手部の検査は、ガス圧接継ぎ手の方法が準用されていたが、鉄筋継手協会より新たな方法が提案されており、その方法が適用可能かについて検討している。そのうち、今回は、鉄筋端面に大きさ、位置を変化させた人工欠陥を設けた場合の実験結果について報告した。 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 土木学会第65回年次学術講演会 | (社)土木学会 | 札幌 |
| 34 | 38 | 2010 | 9 | 2010 | | 1 | 0 | コンクリート構造物の定期点検などに使用する主な非破壊試験方法について紹介した。 | | | | | | |
| 37 | 40 | 2010 | 11 | 2010 | | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートについて、各種非破壊・微破壊試験の適用性の可能性を検討した結果を、その1~その15まで報告した。その1では、全体の試験概要について報告した。 | 基礎材料チーム | 総括主任 研究員 | 森濱 和正 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 41 | 44 | 2010 | 11 | 2010 | | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリートの、円柱供試体、コア供試体などの材齢と音速、強度などの試験結果について報告した。 | 基礎材料チーム | 交流研究 員 | 山田 宏 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 45 | 48 | 2010 | 11 | 2010 | | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体のかぶり厚さについて、日本無線社製のレーダ装置を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 日本無線(株) | | 飯田 洋志 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 49 | 52 | 2010 | 11 | 2010 | | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体のかぶり厚さについて、三井造船社製のレーダ装置を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 三井造船(株) | | 岡 富士男 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 163 | 164 | 2010 | 11 | 2010 | | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体のかぶり厚さについて、計測技術サービス社製の電磁誘導装置を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 計測技術サービス(株) | | 清 良平 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|----|------|---|---|--|------------|---------|---------|--|---------------------|-----------------|
| 165 | 166 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体のかぶり厚さについて、3社(日本ヒルティ、サンコウ電子研究所、富士物産)の異なる方式の電磁誘導装置を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 基礎材料チーム | 研究員 | 伊佐見 和夫 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 167 | 168 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、東横エルメス社製の超音波装置(エルソニック)を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | (株)東横エルメス | | 山口 達夫 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 169 | 170 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、富士物産の取り扱っている超音波装置(パンジツ)を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 53 | 56 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、衝撃弾性波装置(TECS法)を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | リック(株) | | 岩野 聡史 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 57 | 60 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、衝撃弾性波装置(表面2点法)を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 基礎材料チーム | 総括主任研究員 | 森濱 和正 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 61 | 64 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、反発度法(シュミットハンマ)および反発速度比法(シルバースュミット)を用いて、短繊維の影響の検討を行なった。 | 富士物産(株) | | 竹田 文夫 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 181 | 184 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、ポス供試体を用いた場合の短繊維の影響の検討を行なった。 | 千代田建工(株) | | 篠崎 徹 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 185 | 188 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | ポリプロピレン短繊維を混入したコンクリート試験体の強度推定について、小径コアを用いた場合の短繊維の影響の検討を行なった。 | 日本国土開発(株) | | 佐原 晴也 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 145 | 148 | 2010 | 11 | 2010 | 1 | 0 | 衝撃弾性波によってコンクリート品質を評価する場合、弾性波速度が最も重要であるが、弾性波速度は含水量によって変化するため、その影響について検討した。 | リック(株) | | 伊藤 順紀 | 平成22年度秋季講演会 | (社)日本非破壊検査協会 | 沖縄・那覇 |
| 1101 | 1108 | 2010 | 6 | 22 | 2 | 1 | Electrochemical desalination is one possible method for repairing concrete structures deteriorated by chloride ion induced corrosion. However, a target and planning method for desalination are not established. In addition, although the effects of residual chloride ions in de-salinated concrete are not clear, a certain amount of chloride ions can remain after desalination. In this research, concrete specimens treated with insufficient desalination were exposed out-doors in order to study the durability of concrete members repaired by desalination. As a result, the corrosion of steel bars was inhibited, while significant amounts of chloride ions remained. Though in some specimens, cracking was occurred due to the alkali-silica reaction and was facilitated by desalination. | 基礎材料チーム | 主任研究員 | H. Koga | 6th International Conference on Concrete under Severe Conditions (CONSEC'10) | Pedro Castro-Borges | M?rida, Yucat?n |
| 513 | 514 | 2010 | 8 | 22 | 1 | 0 | コンクリート表面から行うことができる現場透気試験は、構造体コンクリートの物質透過性を非破壊で評価できる試験方法として期待されている。しかし、透気係数は、測定対象の含水率の影響を受けることが知られており、試験結果の信頼性には十分に明確でない点がある。そこで、長期間自然乾燥させたモルタル供試体を用い、含水状態の影響を検討した。 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | 第65回年次学術講演会 | | 北海道大学 |
| 539 | 540 | 2010 | 8 | 22 | 1 | 0 | 海からの飛来塩分の影響を受けるコンクリートでは、外部から侵入したナトリウムイオンによってアルカリシリカ反応(ASR)が促進されるおそれがある。アルカリイオンの拡散速度は塩化物イオンよりも小さいと言われているが、外来塩分作用下におけるコンクリートへのアルカリ侵入についての研究例は少なく、その影響は十分に明確でない。そこで、セメントペースト硬化体を塩水に浸せさせた実験を行い、セメント硬化体内でのイオン挙動について検討した。 | 基礎材料チーム | 交流研究員 | 松本 健一 | 第65回年次学術講演会 | | 北海道大学 |
| 551 | 552 | 2010 | 8 | 22 | 1 | 0 | アルカリシリカ反応(ASR)により劣化した構造物の補強工法には、FRP・鋼板接着や巻立てなどがある。これらの工法では、耐力、変形性能を改善するとともに、ASRによる膨張を拘束する効果が期待されるが、その効果については十分に明確でない。本研究では、拘束方向と直交する方向の膨張量に着目し、拘束による影響について基礎的実験を行った。 | 橋梁構造研究グループ | 交流研究員 | 塚田 高則 | 第65回年次学術講演会 | | 北海道大学 |
| 181 | 186 | 2010 | 10 | 22 | 1 | 1 | ASRにより劣化したコンクリート構造物の補修では、補修箇所と既設コンクリート部分の一体性を確保するために、あと施工アンカーが用いられる場合がある。しかし、ASRにより劣化したコンクリートには微細なひび割れが多数生じており、あと施工アンカーの耐荷性状に影響を与えるおそれもあると考えられた。そこで、ASRにより膨張したコンクリート供試体を用いた実験を行った。その結果、コンクリート表面の膨張量が3000×10 ⁻⁶ 程度以下の範囲であれば、あと施工アンカーの耐荷性状に顕著な影響は生じていなかった。 | 橋梁構造研究グループ | 交流研究員 | 早川 智浩 | コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム | 材料学会 | 京都教育文化センター |
| 419 | 424 | 2010 | 10 | 22 | 1 | 1 | コンクリート表面から塗布することで、コンクリートの吸水抑制などの補修効果を得ることができる補修材が着目されている。しかし、アルカリシリカ反応(ASR)による膨張の影響で多数の微細なひび割れが生じているような場合にも吸水抑制効果が得られるのかどうか、必ずしも明確ではない。そこで、ASRによる膨張程度の異なる供試体に表面含浸材を適用し、屋外暴露試験を行った。その結果、約6,000μの膨張が生じていた供試体でも、表面含浸材の吸水抑制効果が認められた。 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 古賀 裕久 | コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム | 材料学会 | 京都教育文化センター |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|------|----|----|--|---|---|--|---------|-------|-------|--------------------------------------|---------------|-------------|--|
| 51 | 53 | 2010 | 4 | 10 | | 1 | 0 | フレッシュコンクリートの単位水量推定方法の現状について解説した。 | | | | | | | |
| | | 2010 | 5 | 10 | | 1 | 0 | 現在、コンクリート解体材の大半は再生クラッシュランとして路盤材や埋め戻し材等に再利用されている。解体材からは微量の六価クロムが溶出する。本研究では、屋外と室内に3年間試料を暴露し、溶出量を測定した。その結果、屋外暴露した解体材からの溶出量は、長期間室内暴露した解体材からの溶出量に比較して格段に小さく、その溶出期間も1ヶ月程度であった。 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | セメント技術大会 | (社)セメント協会 | メロポリタンホテル | |
| 467 | 472 | 2010 | 7 | 10 | | 1 | 1 | コンクリートの乾燥収縮率を簡易に推定する方法について検討した。この結果、骨材の岩種を砕屑岩とそれ以外とに分類することで、コンクリートの乾燥収縮率は骨材の物理的性質やコンクリートの弾性係数と対応関係があることが分かった。 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | コンクリート工学年次大会 | (社)コンクリート工学協会 | 大宮ソニックシティ | |
| 861 | 862 | 2010 | 9 | 10 | | 1 | 0 | コンクリートに使用する砂利骨材の耐凍害性を簡易に評価する方法として、当研究チームが再生骨材の評価用に開発した簡易凍結融解試験法の適用について検討した。 | 基礎材料チーム | 主任研究員 | 片平 博 | 土木学会年次学術講演会 | (社)土木学会 | 北海道大学 | |
| 863 | 864 | 2010 | 9 | 10 | | 1 | 0 | 膨張材を使用したコンクリートの膨張特性と、耐凍害性に関して実験的な検討を行った。 | 基礎材料チーム | 交流研究員 | 天谷 公彦 | 土木学会年次学術講演会 | (社)土木学会 | 北海道大学 | |
| 13 | 16 | 2010 | 12 | 10 | | 1 | 2 | コンクリートの乾燥収縮率を簡易に推定する方法について検討した。ひずみゲージを用いた骨材の乾燥収縮率測定試験の結果は、コンクリートの乾燥収縮率と高い相関関係を示し、簡易推定手法として有力であることを示した。 | 基礎材料チーム | 交流研究員 | 山田 宏 | 「コンクリートの収縮特性評価およびひび割れへの影響」に関するシンポジウム | (社)コンクリート工学協会 | きゅりあん総合区民会館 | |
| 65 | 68 | 2010 | 8 | 10 | | 1 | 4 | PC部材の断面修復工法による補修についての技術的解説を行った。 | | | | | | | |
| 30 | 34 | 2011 | 1 | 11 | | 1 | 4 | コンクリート分野で注目を集める乾燥収縮ひび割れを支配する要因と、ひび割れが鉄筋腐食に与える影響について解説 | | | | | | | |